

「第 8 回新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」（3 月 19 日）及び「第 21 回新型コロナウイルス感染症対策本部」（3 月 20 日）開催に係る概要報告

状況分析等

○3 月 11 日、世界保健機関（WHO）は新型コロナウイルスについて、「パンデミック（世界的な大流行）とみなせる」と表明

○地域ごとの状況に応じた「市民の行動変容」や「強い行動自粛の呼びかけ」をお願いすることで、いかにして小規模な感染の連鎖に留め、それぞれの地域において適切な制御を行った上で収束を図っていけるかが重要。

○日本では、少人数のクラスター（患者集団）から把握し、この感染症を一定の制御下に置くことができていることが、諸外国との患者発生状況と死亡者数の差につながっていると判断。

○日本全国で見れば、大規模イベント等の自粛や学校の休校等の直接の影響なのか、それに付随して国民の行動変容が生じたのか、その内訳までは分からないものの、一連の国民の適切な行動変容により、国内での新規感染者数が若干減少するとともに、効果があった。

○大多数の国民や事業者の皆様が、人と人との接触をできる限り絶つ努力、「3 つの条件が同時に重なる場」を避けていただく努力を続けていただけない場合、感染に気付かない人達によるクラスター（患者集団）が断続的に発生し、その大規模化や連鎖が生じ、ある日、オーバーシュート（爆発的急増）が起こりかねない。

○国内外の現在の感染状況を考えれば、短期的収束は考え難く長期戦を覚悟する必要がある。

地域ごとの対応に関する基本的な考え方

社会・経済機能への影響を最小限としながら、感染拡大防止とクラスター連鎖防止の効果を最大限にしていく観点から、地域の感染状況別にバランスをとって必要な対応を行っていく必要がある。

（1）感染状況が確認されていない地域

* 学校における様々な活動や、屋外でのスポーツ観戦、文化・芸術施設の利用などを、適切にそれらのリスクを判断した上で、感染拡大のリスクの低い活動などから実施。

* ただし、急激な感染拡大への備えと、「3 つの条件が同時に重なる場」を徹底的に回避する対策は不可欠。

（2）感染状況が拡大傾向にある地域

* まん延の恐れが高い段階にならないよう、地域における独自のメッセージや警報の発出、一律自粛の必要性を適切に検討する。

* 社会・経済活動への影響も考慮し、導入する具体的な自粛内容、タイミング、導入後の実施期間などを十分に見極める。

* 特に「感染拡大が急速に広まりそうな局面」や「地域」において、その危機を乗り越えられるまでの期間に限って導入することを基本とする。

（3）感染状況が収束に向かい始めている地域・一定程度に収まってきている地域

* 人の集まるイベントや「3 つの条件が同時に重なる場」を徹底的に回避する対策をした上で、感染拡大のリスクの低い活動から、徐々に解除することを検討。

* 一度、収束の傾向が見られたとしても、クラスター（患者集団）発生の早期発見を通じて、感染拡大の兆しが見られた場合には、再び、感染拡大のリスクの低い活動も含めて停止する必要が生じる。

～集団感染が確認された場に共通する「3 つの条件」～

①換気の悪い密閉空間

②多くの人が密集

③近距離（互いに手を伸ばしたら届く距離）での会話や発声が行われる

例）屋形船、スポーツジム、ライブハウス、展示商談会、懇親会等

* 「全国から不特定多数の人々が集まるイベント」は 3 つの条件が同時に重なる場を避けるに
くい状況が生じるため、主催者に慎重な判断を求める。

* 高齢であれば比較的健康であっても感染し、重症化する可能性が高い。共有の物品がある
場所、不特定多数の人がいる場所などへの訪問は避ける。一人や限られた人数での散歩な
どは感染リスクが低い行動である。

学校等について

・春休み明け以降の学校については、多くの子どもたちや教職員が、日常的に長時間集まることによる感染リスク等に備えることが重要

・この観点から、地域ごとのまん延の状況を踏まえていくことが重要。

・日々の学校現場における「3 つの条件が同時に重なる場」を避ける。

①換気の悪い密閉空間にしないための換気の徹底

②多くの人が手の届く距離に集まらないための配慮

③近距離での会話や大声での発生をできるだけ控える

* 専門家会議の分析・提言を踏まえ、新学期を向かえる学校の再開に向けて、具体的な方針を、
早急に文部科学省において取りまとめる。